

ギリアド サイエンス(GILD)

【セクター】 ヘルスケア

【市場】 NASDAQ

【企業概要】

世界有数のバイオ医薬品メーカーで、HIV、B型・C型肝炎などウイルスによって引き起こされる病気の治療薬が主力です（図表1）。17年8月にはがん免疫療法の一つである「CAR-T細胞療法」のリーダー企業の1社であるカイトファーマ社を、20年3月にはがん免疫治療薬を開発するフォーティセブンを買収し、がんの治療薬開発にも注力しています。また、エーザイとは関節リウマチ治療薬の販売契約を結んでいます。抗インフルエンザ治療薬「タミフル」の特許を保有します。

【業績】（単位：売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%）

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
18年12月期	22,127	6,923	5.29	2.28	16.7	33.1	33.8
19年12月期	22,449	6,822	5.34	2.52	17.8	31.1	36.8
20年12月期予想	24,244	8,689	7.03	2.67	20.1	29.9	-

※EPS：1株当たり利益、DPS：1株当たり配当、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

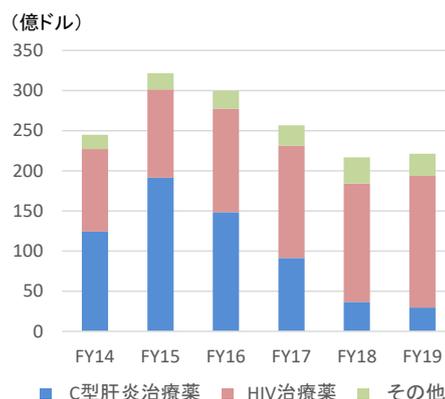
【主要指標】

図表1 主要製品（19年12月期）

製品名	治療薬	売上
ビクトルビ	HIV治療薬	47.4
ゲンボイヤ	HIV治療薬	39.3
ツルバダ	HIV治療薬	28.1
シホスビル/ベルパタスビル	C型肝炎治療薬	19.7
オデフシ	HIV治療薬	16.6
デシコビ	HIV治療薬	15.0

（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

図表2 製品分野別売上の推移



（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

【会社の見方】

15年度まで急拡大したC型肝炎治療薬の需要が16年度から急減し、現在はHIV治療薬が中心です（図表2）。同社のHIV治療薬は、過去米国でHIVに感染していると診断された94万人のうち、62万人に使用された実績があり、米国のHIV治療に関して中心的な役割を担っています。新型コロナウイルスの治療薬では、エボラ出血熱向けに開発していた「レムデシビル」がCOVID-19で米FDA（食品医薬品局）の「緊急使用許可」を得ています。6月末に1回分の治療で2,340ドルと価格が決められ、売上は23億ドルに達し、開発・販売コストの10億ドルはカバーされるとの見方もできています。

【見通し・注目点】

4-6月期決算は、COVID-19のパンデミックによる影響がC型肝炎治療薬の販売に大きく出たほか、後発薬の発売で売上が減少したこともあり、売上は前年同期比10%減でした。買収関連費用などを除いた調整後EPSは前年同期比35%減ですが、このうち「レムデシビル」の開発関連によるマイナスの影響が23%ポイントを占めます。

(SBI証券 投資情報部 榮 聡)

(更新日 20/8/5)

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。